完全対策講座 地学基礎

このPDFは、製品版の冒頭5ページを抜粋した
無料の試し読みサンプルです。目次・本文の書き方・
問題の出し方を確認してから、購入をご検討ください。

購入先

・黒田塾 教材プラン（科目別・セット価格、LINEで注文）
https://kurodaschool.jp/materials/
・BOOTHショップ「東大黒田塾」（ダウンロード販売）
https://kurodajuku.booth.pm/
・科目選びの相談（無料）
https://kurodaschool.jp/contact/

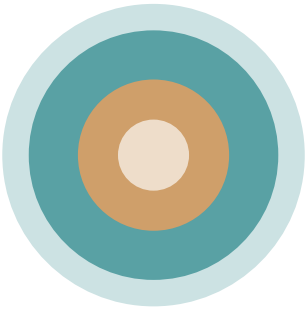
※ サンプルは製品版の一部です。収録範囲・分量の全体は
各販売ページでご確認ください。
※ 本サンプルは個人の学習用です。第三者への配布・転載・
転売・共有は禁止します。
※ 購入や読了による合格・得点を保証するものではありません。

改訂第6版 / TeX組版

高校地学基礎

なぜと流れで身につく
全範囲学習教材

初学者から、共通テストの高得点を目指す。



なぜ起こるかを読む
考え方を例題で追う
穴あきで思い出す
演習の直後に確かめる

48単元・384空欄・464問（例題48問・応用確認48問を含む）
単元ごとに、講義 → 例題と応用確認 → 穴あきプリント → 演習。
図解・資料演習18題材、章末問題、初見資料、複合資料、総合問題2回を収録。

対象は高校「地学基礎」。難関国公立大学を目指す場合も、この科目の理解と得点力を固めるために使う。発展科目「地学」の全範囲は別科目である。

説明・問題・図表は本教材のオリジナル。学習用データと模式図は、実測値の提示を目的としない。2026年10月30日改訂。

試し読みサンプル

最初に読む / 範囲と到達目標

この一冊で、何をできるようにするか

用語を見て分かる段階から、図や条件が変わっても根拠を使って判断する段階へ進む。そのために、説明の途中を省かず、知識を使う順序まで示す。

到達段階	できること	確かめる場所
理解	何が原因で、途中で何が変わり、結果が生じるか説明する。	講義・例題
想起	答えを見ずに語句を出し、文全体の意味を言い直す。	各単元の穴あき8個
適用	条件・図の軸・単位を読み、習った考え方を使う。	単元演習・章末
転用	資料を組み合わせ、使える仮定と限界を示す。	初見・複合・総合

「全範囲」の意味

文部科学省の学習指導要領解説に示された地学基礎の内容領域を、次頁の対応表で確認できる。[1] 「地球のすがた」と「変動する地球」を、初学者が学びやすい48単元に組み替えた。中学校までの前提知識と地学基礎の基本事項を扱う。教科書の発展欄に相当する段階的な山越えの気温計算や、大気の安定・不安定の判定は収録しない。[22][23]

「読み終えた」と「使える」は別の到達点

この本の問題を覚えただけで、すべての入試問題を解けるとは判定しない。最後は未見の公式公開問題で、制限時間内に根拠を示して解けるか確認する。志望大学で必要な科目・配点も募集要項で確認する。

> 本書の学習目標：穴あき8/8、単元演習4/4、応用確認1問を理由つきで説明。章末5/6以上、総合2回とも45/50以上を復習の目安にする。いずれも教材内の目安で、入試得点や合格の保証ではない。

試し読みサンプル

学習指導要領の領域 → 本書の単元

学習範囲の対応表

地学基礎で扱う領域 [1]	主な講	ここで確認する内容
地球の形と大きさ・内部構造	07〜09	形・測定・地殻とマントルと核・地震波
プレートの運動	10〜12	3種類の境界・地形・断層・プルーム
火山活動と地震	13〜18	部分融解・火山地形・火成岩・地震波・災害
地層と岩石・地球史の記録	19〜25	鉱物・風化・堆積・変成・化石・前後関係
地球環境と生物界の変遷	26〜30	海と酸素・地質時代・生物の変化・人類
宇宙、太陽系、地球の誕生	31〜35	膨張・原子の形成と晴れ上がり・核融合・惑星・水
大気の構造と熱収支	36〜40	受熱差・気圧・層構造・放射・温室効果
大気と海水の運動	41〜45	風・前線・循環・熱輸送・海水の密度
地球環境の科学	47、38〜45	温暖化・オゾン層・海洋と大気の変動
日本の自然環境	18、46、48	季節・気象災害・地震火山災害・恩恵と対策
観察・実験・探究	01〜06、各章、巻末	仮説・比較条件・図表・単位・観測からの推論

01〜06は、本文を読むための数学・理科の道具の復習。計算では必要な量や条件を問題文に示す。地質時代の細かな数値は丸めた概数を用い、指定値がある問題ではその値を使う。

試し読みサンプル

読む → 解き方を見る → 隠して思い出す → 自力で使う

1単元の進め方

ページ	具体的な行動
講義	冒頭の「なぜ」に自分なりの予想を立てる。本文を読んだ後、流れの矢印を一つずつ文章にする。
考え方を練習する	最初に問題を自分で考える。直後の解説で、どの条件を使い、どの順番で判断したかを確かめる。応用確認を自分で解き、理由も照合する。
穴あき確認プリント	下段の答えを紙で隠す。①〜⑧を埋め、空欄を埋めた全文を言い直す。分からなければ講義に戻る。
演習と直後解説	解説を隠して解く。正解だけでなく、理由・式・単位を照合する。偶然当たった問題は再回答する。

復習するのは、間違えた判断の一段階

「海嶺の速度で2倍するか迷った」なら、片側の移動距離と両側の間隔を図に描く。「地層の新旧を逆にした」なら、切るものが後という関係に戻る。正解の番号だけを写しても、次の図へ判断を移せない。

初学者の学習日程

1日1〜2単元を目安に、読解速度に合わせて進める。各単元は20〜40分を仮の予定とし、説明できない所には時間を使う。図解・資料演習のある単元では図の判断も確かめる。6単元ごとの章末を経て、最後に初見・複合・総合へ進む。翌日・3日後・7日後に穴あきを解き直す。日数は習得の保証ではなく、予定を立てる目安である。

演習の解説は、すべて設問の直後にある。最初に答えを見ないよう紙で隠す。総合問題も同じ配置なので、試験形式で使うときは一問ずつ解説を覆う。

試し読みターミナル

用語を、原因と時間の中へ置く

全体をつなぐ三つの軸

軸	つながる内容	戻る問い
地球内部の熱	内部構造 → プレート → 火山・地震 → 岩石・地形	どこが動き、どこが融け、どこが変形するか。
太陽のエネルギー	核融合 → 放射 → 受熱差 → 大気・海洋 → 天気	熱をどこで受け取り、どこへ運ぶか。
時間と記録	風化・堆積 → 地層・化石 → 地球史 → 今の環境	どの出来事が先で、何が証拠として残るか。

火山から、離れた単元をつなぐ

プレートが沈み込むと、水が地下へ運ばれる。上側のマントルの一部が融けてマグマができ、冷えると火成岩になる。噴火した火山灰は地層に残り、離れた場所の時代を比べる鍵になる。火山地形は水の流れや暮らしにも関係する。地下の運動、岩石、地層、防災が同じ過程でつながる。

水から、今と過去をつなぐ

現在の空気は上昇して冷えると、水蒸気が凝結して雲をつくる。初期の地球でも、冷却で水蒸気が凝結し、海の形成につながった。状態変化の考え方は共通していても、時間・規模・温度の条件は異なる。共通点と条件の違いを両方見る。

資料に出会ったら：①対象と時刻・期間を読む。②軸と単位を読む。③変わった量を特定する。④原因と途中の変化をつなぐ。⑤その説明が使える条件を確かめる。

試し読みサンプル